



「安心・安全を支える基盤づくり」について

問 土砂災害危険箇所基礎調査の事業目的は何か。

答 住民の皆さんに土砂災害の危険区域、危険性を十分周知し、いち早く逃げていただくための取り組み。

問 松阪市飯南町が土砂災害警戒区域等に指定されたが、浸透していない。他の市町の状況はどうか。

答 他の市町も同様の状況ではないかと思っている。

意見 この事業の目的は、土砂災害の危険区域を明らかにすることと、住民への周知である。今年度の予算は6億3600万円、さらに28年度〜31年度までの

4年間は、26億円の計画となっている。住民の命に関わることであり、周知徹底していただきたい。

河川堆積土砂対策事業について

問

当初予算を含めて7億2000万円となつていますが、要望に対し、どれくらい実施できるのか。

答

概ね300万m³の土砂が堆積している。災害復旧費も活用しながら、年間30万m³〜40万m³くらいの土砂撤去をできるよう方策を講じていきたい。

松阪市内の河川堆積土砂状況



飯高町栗野 地添川



嬉野中川町 中村川



東黒部町 中の川



飯高町木梶 木梶川



八太町 孫川



大河内町 坂内川



曲町 堀坂川

定例会での主な議案質疑(9月18日)



伊勢志摩サミットが県予算に与える影響

問

伊勢志摩サミット開催に備えるため、「警備体制の強化」や「道路整備等の経費」約59億円の補正予算が上程された。

その内、土木費の補正予算は54億円であるが、県全体の土木費に与える影響は。

答

今回の補正予算は伊勢志摩サミットに必要な予算を新たに計上しており、他の地域から振り替えるようなことは行っていない。

意見

歳入のほとんどは県債(借金)と財政調整基金(貯金)からの繰り入れであるが、サミットは、国が開催する会議である。

県の支出は最小限に抑え、国が負担すべきである。財政支援等を、国に要望するとともに、経費を抑えるよう配慮願いたい。

問

年度末にかけて工事が集中する中で、54億円の事業が、僅か半年で完了できる見込みはあるのか。他の工事への影響はないのか。

答

維持工事が中心となつていることから、他の工事の影響を受けるものではないと考えている。サミット開催に間に合うよう計画的に進めていく。

意見

天候を考慮し、優先順位を付けるとともに、県単事業であることから県内業者への発注をお願いしたい。

